

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和5年2月15日版

1 実施概要

■実施日時	令和4年11月17日（木）18日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ12名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> ・同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【11月17日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【11月18日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋） ・調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約135kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理せず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 347.3kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.5kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 66.2kg、②東部地区は 18 袋で 54.7kg、③西部地区は 11 袋で 42.5kg、④南部地区は 16 袋で 72.7 kg、⑤北部地区は 24 袋で 88.0 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 23.2 kg であった。

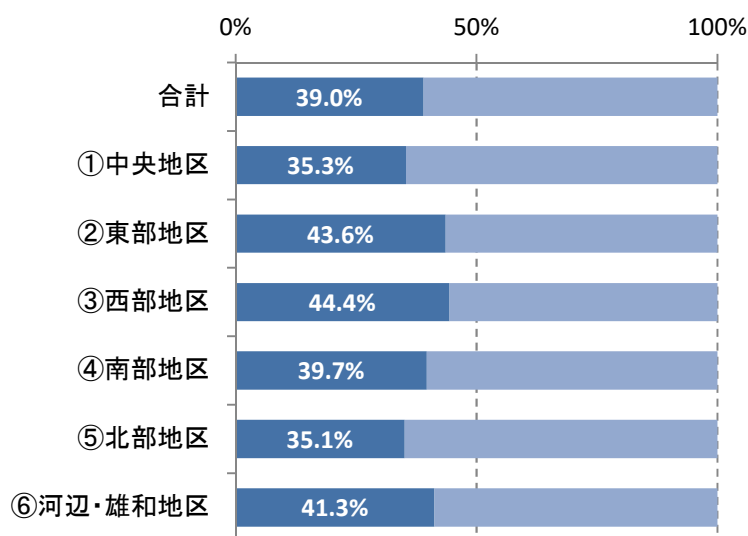
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	347.3	3370	3.5	33.7
① 中央地区	23	66.2	775	2.9	33.7
② 東部地区	18	54.7	635	3.0	35.3
③ 西部地区	11	42.5	385	3.9	35.0
④ 南部地区	16	72.7	455	4.5	28.4
⑤ 北部地区	24	88.0	865	3.7	36.0
⑥ 河辺・雄和地区	8	23.2	255	2.9	31.9

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 39.0%、地域別に見ると③西部地区が最も高く 44.4%、次いで②東部地区の 43.6%、⑥河辺・雄和地区の 41.3%、④南部地区の 39.7%、①中央地区の 35.3%、⑤北部地区の 35.1%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	347.33	135.49	39.0%	61.0%
①中央地区	66.20	23.40	35.3%	64.7%
②東部地区	54.74	23.88	43.6%	56.4%
③西部地区	42.54	18.90	44.4%	55.6%
④南部地区	72.69	28.87	39.7%	60.3%
⑤北部地区	87.96	30.86	35.1%	64.9%
⑥河辺・雄和地区	23.20	9.58	41.3%	58.7%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

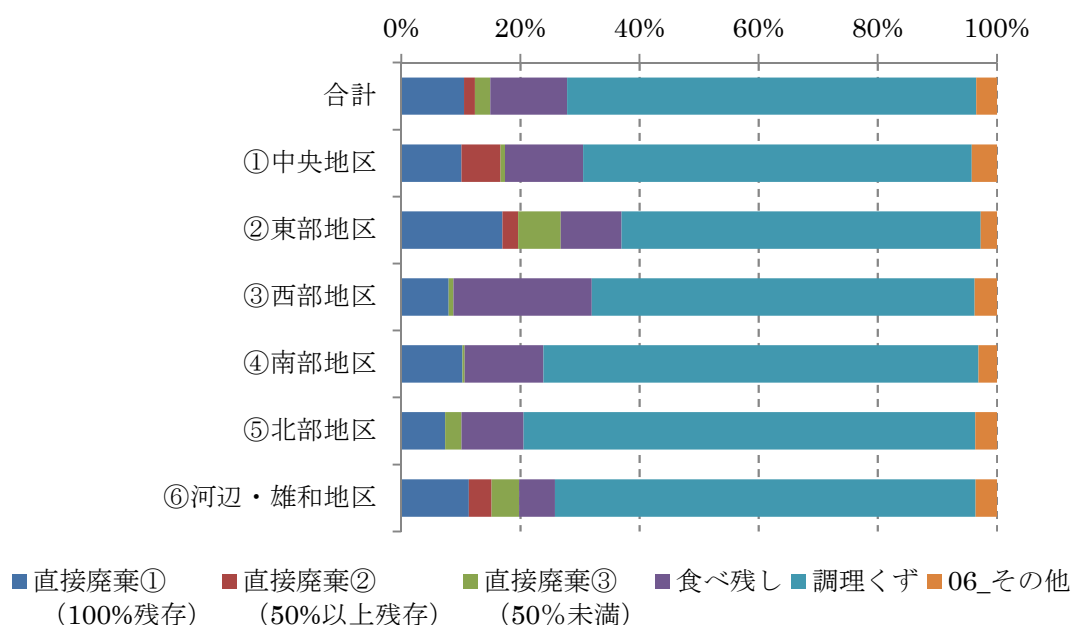
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では27.8%、地区別に見ると②東部地区が最も高く37.0%、次いで③西部地区の32.0%、①中央地区の30.5%、⑥河辺・雄和地区の25.8%、④南部地区の23.9%、⑤北部地区の20.5%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、②東部地区の食品ロスの割合は、⑤北部地区よりも16.5ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち10.5%を占めており、②東部地区で17.0%と高く、次いで⑥河辺・雄和地区が11.3%、④南部地区が10.2%、①中央地区が10.1%、③西部地区が8.0%、⑤北部地区が7.4%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では12.9%、③西部地区が23.3%と高く、次いで、④南部地区の13.2%、⑥河辺・雄和地区が最も低く6.0%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	27.8%	10.5%	1.9%	2.5%	12.9%
①中央地区	30.5%	10.1%	6.6%	0.7%	13.1%
②東部地区	37.0%	17.0%	2.6%	7.2%	10.2%
③西部地区	32.0%	8.0%	0.0%	0.8%	23.3%
④南部地区	23.9%	10.2%	0.0%	0.4%	13.2%
⑤北部地区	20.5%	7.4%	0.0%	2.8%	10.4%
⑥河辺・雄和地区	25.8%	11.3%	3.8%	4.6%	6.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

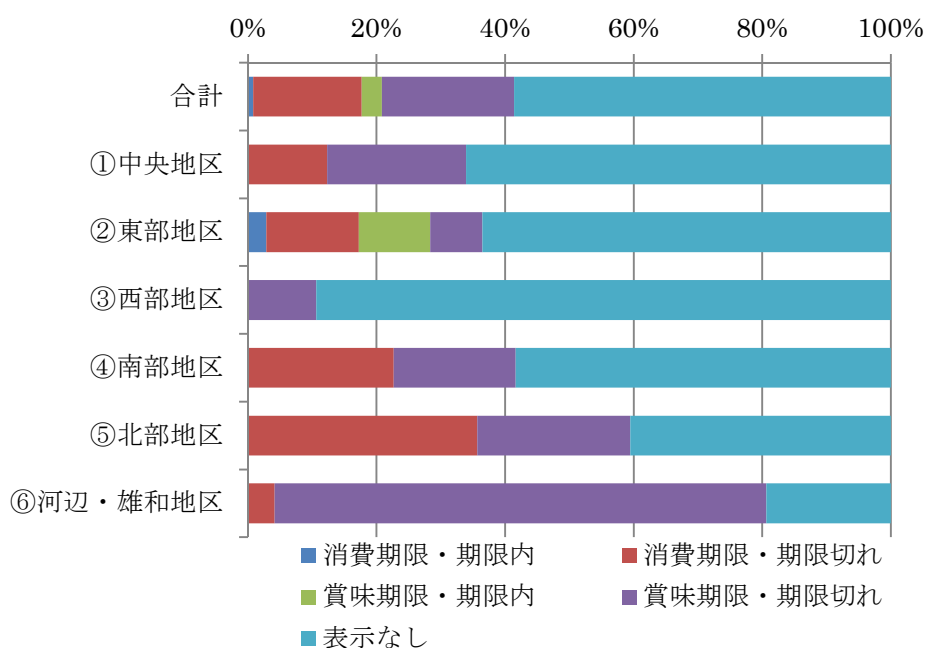
直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く58.6%であり、消費期限の表示があったものは17.7%（期限内が0.8%、期限切れが16.9%）、賞味期限の表示があったものは23.8%（期限内が3.2%、期限切れが20.6%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち0.8%、地区別では、②東部地区のみで2.8%であった。

「期限切れ」については、⑤北部地区で最も高く35.7%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち3.2%、地区別では、②東部地区のみで11.1%であった。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.8%	16.9%	3.2%	
①中央地区	0.0%	12.3%	0.0%	21.6%	66.1%
②東部地区	2.8%	14.4%	11.1%	8.1%	63.5%
③西部地区	0.0%	0.0%	0.0%	10.6%	89.4%
④南部地区	0.0%	22.7%	0.0%	19.0%	58.4%
⑤北部地区	0.0%	35.7%	0.0%	23.8%	40.5%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	4.1%	0.0%	76.5%	19.4%

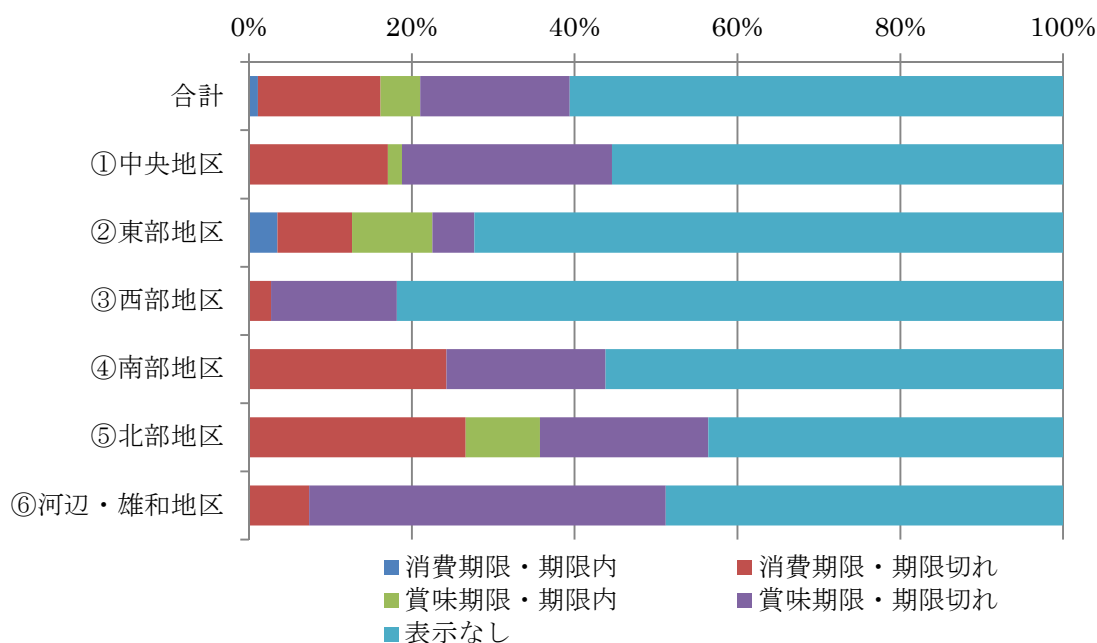
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く60.6%であり、消費期限の表示があったものは16.1%（期限内1.1%、期限切れ15.0%）、賞味期限の表示があったものは23.3%（期限内4.9%、期限切れ18.4%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち1.1%であり、地区別では、②東部地区のみで3.5%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち4.9%、地区別に見ると②東部地区が最も高く9.9%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	1.1%	15.0%	4.9%	18.4%	60.6%
①中央地区	0.0%	17.1%	1.7%	25.8%	55.4%
②東部地区	3.5%	9.1%	9.9%	5.2%	72.3%
③西部地区	0.0%	2.7%	0.0%	15.5%	81.8%
④南部地区	0.0%	24.3%	0.0%	19.5%	56.2%
⑤北部地区	0.0%	26.6%	9.1%	20.7%	43.6%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	7.4%	0.0%	43.8%	48.8%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和3年度の実績を参考に一人1日あたりの食品ロス発生量を推計すると55.4g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が29.7g/人・日、食べ残しが25.7g/人・日と推計された。

図表6 一人1日あたりの食品ロス発生量（秋田市）

